



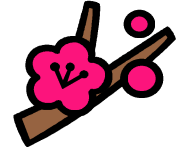
アンサンブル



2025.3.7

No.25

意識の違い



ある本に次のようなことが書かれていました。

それは、親と子の意識の違いについて、大きな落差があるという内容のものでした。

「お子さんをよくほめる方ですか」

「家でお家の方からよくほめられていますか」

それぞれの問いかけをお家の方、子どもにしたそうです。本当の親子ですから答えは一致しているはずですが、ところが、女の子の場合はそれほどはっきりした違いはありませんが、男の子の場合は親子で極端に違いが出たというのです。

親は子どものことを「ほめている」と思っているのですが、子どもは親からそうほめられているとは受け取っていません。これはどちらが正しいのか、ということよりも親はそれなりにほめているにもかかわらず、子どもはほめられていないと思っているところに大きな問題があります。

例えば、プールで初めて25メートル泳げた子が喜び勇んで帰ってきた時、お家の方は、どんな声かけをするのでしょうか。

「わあ、すごい。よくやったわねえ」

とほめると思うのですが、その後、多くの方が多分、

「今度は50メートルをめざして頑張るね」

と続けることが多いのではないのでしょうか。このとき、子どもは「ほめられた」と感じるのではなく、場合によっては「がんばれ」とお尻をたたかれたと受け取るというのです。

昔から「三つ叱って五つほめ、七つ教えて子は育つ」ということわざがあります。しかし、ややもすると逆になりがちなんてことはないのでしょうか。子どもが努力した時、あるいは進歩を見せた時、そんな時にこそ思い切りほめてあげられるようになりたいものです。それが子どもをのばすコツであり、非行を防ぐことにもつながるというのです。

もちろん、教師しかりです。肝に銘じたいと思います。